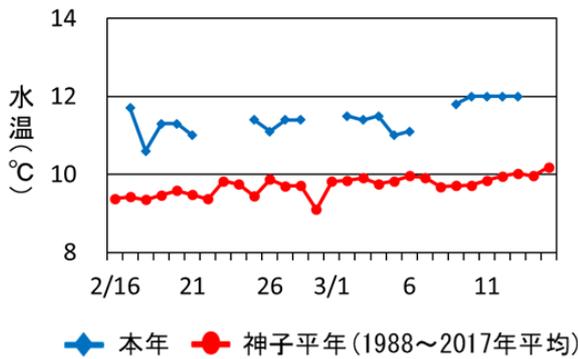


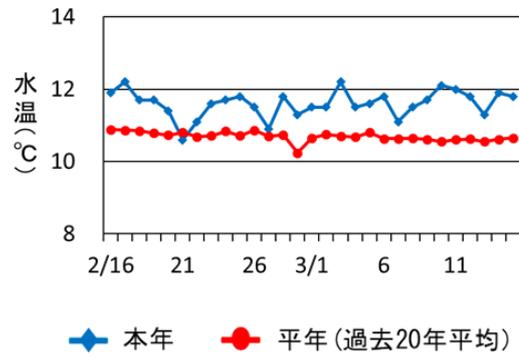


〔海の状況 (2/16~3/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 期間を通して神子平年よりかなり高め (平年差1.0℃~1.5℃) からはなはだ高め (平年差1.5℃~) で推移した。(図1)
※神子平年は、1988年~2017年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 期間を通しておおむね平年並み (平年差±0.5℃) からかなり高め (平年差1.0℃~1.5℃) で推移した。(図2)



◆ 本年 ● 神子平年(1988~2017年平均)
図1 若狭町小川地先における表面水温の推移



◆ 本年 ● 平年(過去20年平均)
図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況：2月〕

2月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(水深0m)、水深50mでは、若狭湾沿岸で12℃~14℃と前年同様であった。水深100mでは、山陰・若狭沖冷水域が前年より沿岸から離れていた。水深200mでは、若狭湾沖で4℃以下の範囲が前年より小さくなっていた。(図3)

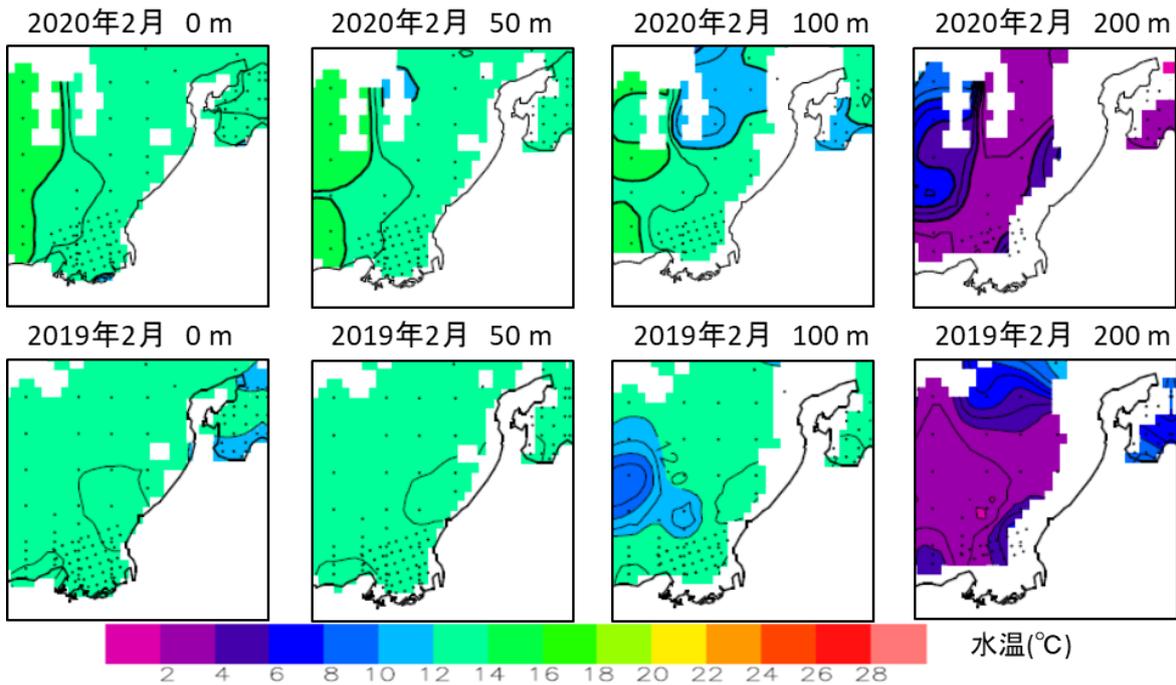


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

サワラの漁獲量が増加しています

2020年のサワラ漁獲量が、3月15日時点で344tとなりました。これは、1～3月の過去20年平均（118t）のおよそ3倍であり、データのある1992年最多の漁獲量となりました。内訳をみると、1月のサゴシ銘柄漁獲量が214tと過去20年平均（43t）のおよそ5倍、2月のサワラ銘柄漁獲量が43tと過去20年平均（4t）のおよそ10.8倍となりました。サワラ銘柄は春に産卵のため移動し、サゴシ銘柄は大きな移動をしないと考えられているため、漁獲の中心であるサゴシ銘柄の好漁が継続するのではないかと期待しています。（漁場環境グループ 長島 拓也）

〔県内の漁模様：2月〕

2020年2月の県内の総漁獲量は504tで、前年同月並みであった。

〔定置網〕

漁獲量は131tで、前年同月を82t上回った。マグロ類、ヤリイカ等は下回ったが、サワラ等は大きく上回った。

〔底びき網〕

漁獲量は318tで、前年同月を88t下回った。水ガニ、マダイ、フグ類等は上回ったが、アカガレイ、ハタハタ、ズワイガニ（オス）等は下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は55tで、前年同月を19t下回った。ヤリイカ、ブリ銘柄（ツバス）、ヒラメ等は上回ったが、タコ類、メバル類等は下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(2月)

定置網	(kg)				
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
マイワシ	251	102	80	149	171
カタクチワシ	3,324	2,175	292	1,149	3,033
アジ類	3,658	2,648	7,854	1,010	-4,196
サバ類	379	1,181	1,147	-802	-768
マグロ類	677	4,387	1,535	-3,710	-858
ブリ銘柄計	6,601	6,432	5,326	169	1,276
(ブリ)	3,083	3,992	776	-909	2,307
(ワラサ)	743	51	261	692	482
(ハマチ)	1,865	152	578	1,712	1,286
(ツバス)	911	2,237	3,710	-1,327	-2,800
ヒラマサ	429	366	201	64	229
サワラ	88,424	11,670	29,142	76,753	59,281
マダイ	496	187	159	309	336
スズキ	8,735	3,204	3,951	5,532	4,784
ヒラメ	710	361	259	349	451
ケンサキイカ	540	110	220	429	320
ヤリイカ	7,790	10,772	4,816	-2,981	2,974
その他	8,590	4,862	7,161	3,728	1,428
合計	130,603	48,457	62,143	82,147	68,461

底びき網

魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
マダイ	1,408	679	505	729	903
キダイ	940	948	537	-8	403
ヒラメ	1,611	2,994	2,378	-1,383	-767
アカガレイ	122,028	171,235	228,203	-49,207	-106,176
その他カレイ	27,658	30,473	24,696	-2,815	2,962
フグ類	1,073	583	218	489	855
アナゴ	543	525	1,518	17	-975

底びき網の続き

魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
ハタハタ	46,942	83,038	68,060	-36,095	-21,117
メバル類	661	481	399	180	261
ニギス	1,191	2,224	414	-1,033	777
タコ類	4,976	4,742	4,281	234	694
ズワイガニ〔オス〕	36,326	39,767	37,705	-3,441	-1,380
水ガニ	35,482	27,062	47,746	8,419	-12,264
アカエビ	3,016	2,616	6,153	401	-3,137
その他エビ	5,102	7,901	5,856	-2,799	-754
その他	29,347	31,014	30,095	-1,667	-747
合計	318,303	406,283	458,765	-87,979	-140,462

釣り、延縄、さし網、その他の漁法

魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
(ツバス)	1,624	328	3,094	1,296	-1,470
マダイ	701	480	1,077	221	-376
キダイ	2,983	2,574	2,079	410	905
アマダイ	2,671	2,855	2,925	-184	-255
スズキ	430	828	600	-398	-170
ヒラメ	1,761	1,093	1,597	668	164
メバル類	2,894	4,049	4,594	-1,155	-1,700
ヤリイカ	6,760	4,494	3,107	2,267	3,654
コウイカ	25	86	51	-61	-26
タコ類	2,464	6,489	6,024	-4,025	-3,560
その他	32,984	51,109	56,570	-18,125	-23,586
合計	55,297	74,385	81,716	-19,088	-26,419

全漁法

魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
合計	504,203	529,124	602,624	-24,921	-98,420

※1 平年の値は2010-2019年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3 ズワイガニはオス・メス・水ガニに分けて集計しています。ズワイガニ漁獲量は集計方法の違いにより福井県底曳網漁業協会と異なる場合があります。

※4 ニギスの平年値は2015-2019年の5年平均です ※5 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：2月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：2月にJF京都魚連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：2月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：2月中旬～3月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…カタクチワシ45.3t、スルメイカ8.6t、サバ2.8t、マイワシ1.5t、マアジ1.2t

京都府…定置網…カタクチワシ21.0t、サワラ類2.6t、マグロ類0.6t、ヤリイカ0.4t、マアジ0.4t、ブリ0.4t

兵庫県…定置網…マイワシ183kg、マアジ152kg、ヤリイカ59kg、ハマチ56kg、サワラ34kg、ウルメイワシ33kg

鳥取県…まき網…マイワシ87.6t、マサバ15.7t、マアジ9.4t、ウルメイワシ4.1t、ブリ類3.0t

(漁場環境グループ 長島 拓也)

イワガキの幼生分布調査について

イワガキは夏の旬の味として、本県の重要水産資源となっています。しかし、天然イワガキは成長が遅いうえ、漁獲後の基質には稚貝が付着しにくいことから資源の減少が危惧されています。イワガキ養殖も行われていますが、その生産量は少なく天然の1%未満です。

そこで、今年度からイワガキの生産拡大を図ることを目的に、栽培漁業センターで種苗生産試験を開始するとともに、海洋研究部では天然海域で効率的に採苗する手法（以下、天然採苗）の検討を行っています。

今回は、今年度実施した天然採苗を行う上で重要となる幼生発生ピーク時期および分布量の多い海域を推定するために行ったイワガキの幼生分布調査を紹介します。

調査は、他県の事例からイワガキの幼生が多く発生するとされる8月下旬から9月上旬を含むように、合計9回実施しました。調査定点は、水産試験場が潮流計を設置している定置網およびイワガキ漁場近傍の6ヶ所としました（丹生、日向、常神、世久見、宇久、大島）。調査方法は、調査定点において、海水をエンジンポンプでくみ上げ、目の細かいネット（0.08mm）に通して、プランクトンを採集します（写真1）。プランクトンとは、水中・水面に浮いて生活している小さな生物の総称で、採集したプランクトンには、二枚貝、巻貝の幼生（赤ちゃん）など様々な生き物が含まれます（写真2）。イワガキは二枚貝の仲間ですが、幼生の段階では外見でイワガキと特定することは困難です。そこで、リアルタイムPCRという方法で、採集したプランクトンにイワガキのDNAが含まれるかどうか、その量が多いか少ないかを判別しました。

リアルタイムPCRによる解析結果を表1に示します。イワガキの幼生が多く出現したのは調査期間の前期だと7/24の丹生、中期だと8/26の丹生、後期だと9/27の丹生、世久見、宇久でした。

また、すべての定点で確認されたのは8月下旬から9月上旬、9月下旬から10月上旬であり、広範囲で出現のタイミングが同調している可能性が考えられました。

今後は、出現量の多い海域と潮流の関係や、出現のタイミングと水温や気象との関係を見つけていきたいと考えています。

また、出現のタイミングが広範囲に同調している可能性があることから、天然採苗の時期を決定するために代表地点（例えば水産試験場の前など）による調査で全体の傾向を捉えることができるかを検証したいと考えています。



写真1 プランクトン採集の様子

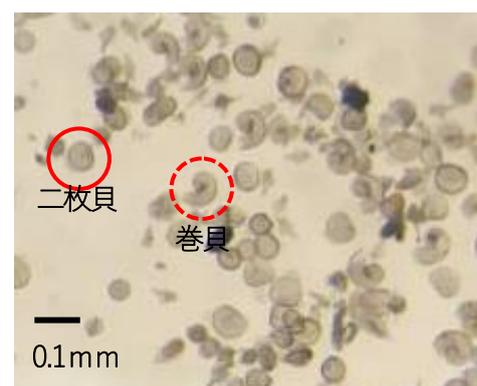


写真2 採集したプランクトン

表1 イワガキ幼生の出現状況

○印は幼生が確認されたもの、◎は幼生が多かったものを示している。前期、中期、後期毎にイワガキのDNA検出レベルで、1,000倍以上の差があるものを多いと判断した。

定点/日	前期		中期				後期		
	7/24	8/1	8/8	8/19	8/26	9/2	9/11	9/27	10/2
丹生	◎				◎	○	○	◎	○
日向				○	○	○		○	○
常神	○			○	○	○		○	○
世久見	○			○	○	○		◎	○
宇久	○	○			○	○		◎	○
大島		○		○	○	○		○	○